

ALPS処理水の処分に係る 対策の進捗等について

令和6年9月

経済産業省 福島復興推進G

ALPS処理水の処分に関する基本方針の実施状況と今後の対策の方向性について(令和6年8月30日)

1. この1年の主な実施状況

- 昨年とりまとめた今後の取組のポイントを踏まえ、①安全確保、説明・情報発信、②風評影響対応、なりわい継続支援、③将来技術の検討等を引き続き実施。
- 具体的には、ALPS処理水放出の安全性を確認し、IAEAも国際安全基準に合致と評価。これらの結果等を科学的根拠に基づき国内外へ透明性高く情報発信し、一部の国・地域による日本産水産物の輸入規制措置に対し、即時撤廃を働きかけ。また、輸入規制措置を踏まえた国内加工体制強化・販路開拓支援や漁業者がなりわい継続するための支援、将来技術の検討を実施。

前回 (R5.8.22) 確認した放出後の取組の主なポイント等		この1年の主な実施状況
安全確保／説明・情報発信	国と東京電力が実施する安全確保の取組について、国際専門家を含むIAEAタスクフォースが海洋放出前・中・後と継続的にレビューを実施することで、第三者が安全性を徹底的に確認。放出前後にはIAEA職員が福島第一原子力発電所に常駐し、確認を継続する体制を構築。	ALPS処理水の安全性等を確認するために、IAEAが2度のレビューミッションを実施。報告書には「関連する国際安全基準の要求事項と合致しない点も確認されなかった」とが明記され、海洋放出が安全に行われていることを確認。また、IAEAの職員が福島第一原子力発電所に常駐し、安全性の確認を実施。
	原子力規制委員会は海洋放出が適切になされていることを継続して確認する。東京電力には、安全に係る法令等の遵守に加え、緊張感をもった対応を求める。	原子力規制委員会において、東京電力によるALPS処理水の海洋放出が、実施計画に基づき適切に行われていることを継続的に確認。
	強化・拡充したモニタリングを実施し、関係機関の測定結果をまとめたわかりやすいウェブサイトにて国内外に対し透明性高く情報発信。放出停止レベルを超える等の事象が発生した場合、放出中断するなど適切に対処。	総合モニタリング計画に基づき、強化・拡充したモニタリングを実施し、安全に放出が行われていることを確認。その測定結果についてまとめた、わかりやすい関係機関のウェブサイトにて、国内外に対し、多言語で透明性高く発信。
	ALPS処理水の安全性やその処分の必要性等について、国内外への情報発信を継続。日本産食品の輸入規制について、ALPS処理水の海洋放出を理由とした新たな措置が講じられないよう、政府一丸となって取り組む。	ALPS処理水の海洋放出について、国際会議の場等で科学的根拠に基づき国内外に対して透明性高く情報を発信。一部の国・地域による日本産食品の輸入規制については、即時撤廃を求めるなど、働きかけを実施。
風評影響対応／なりわい継続支援	令和5年度予算に拡充・強化した被災地の水産業をはじめとする支援策や令和4年度補正予算に措置した漁業者がなりわいを継続するための500億円の基金による支援に取り組む。またそのための説明会を開催する。	被災地における水産業の事業継続・拡大等を支援し、また、ALPS処理水海洋放出の影響を乗り越え、持続可能な漁業継続を実現するための取組に対して支援。全国や各地域の漁業者団体等に対して説明会を実施。
	三陸常盤ものの魅力発信に取り組む。ネットワーク参加企業に消費を呼びかけ、「三陸・常盤ウィークス」を始め、三陸常盤ものの継続的な消費拡大に取り組む。	全国の小売事業者と連携した三陸常盤ものの販促イベントを実施。また、「三陸・常盤ウィークス」期間中に、三陸・常盤もののネットワーク参加企業等において、弁当及び社食等約198万食を提供。
	事業者が活用できる説明資料の提供等により、取引継続に向けた環境整備を実施。	食品関係事業者に買いたたき等を行わないことを要請し、また、問合せがあった場合に活用できる資料等を提供。
	中小企業施策や観光施策について、事業内容の説明や個別相談等のきめ細やかな対応を行うとともに、観光業への風評影響を払拭すべく、三陸常盤地域における集中的なイベント実施やブルーツーリズムの推進等を通じた観光需要創出にも取り組む。	三陸常盤地域において、中小企業者等を対象とした支援施策の合同説明会を実施。福島15市町村の店舗でポイント還元による来訪者向け消費喚起キャンペーンの実施や「ブルーツーリズム推進支援事業」等による観光需要創出に向けた取組を実施。
	「水産業を守る」政策パッケージの一環として、300億円の需要対策基金や予備費等により、状況に応じて、水産物等の国内消費の拡大、国内生産の維持、新たな輸出先のニーズに応じた加工体制の強化、新たな輸出先の開拓等、臨機応変な対策を講じ万全を期す。地域・業種の事情に応じた適切な賠償を行うよう東京電力を指導。	「水産業を守る」政策パッケージ等による対応として、①国内販路拡大、一時買取り・保管、出荷調整等への支援、②国内加工体制の強化に向けた機器導入や加工施設整備等の支援、③日本産水産物のPRイベントや商談イベント等による代替販路開拓への支援等を実施。被害の実態に見合った必要十分な賠償を迅速かつ適切に実施するよう東京電力を指導。
将来技術	汚染水発生量抑制に向けた取組を継続し、2028年度に約50～70m ³ /日まで低減を目指す。	2023年度の汚染水発生量は、敷地舗装範囲拡大等により約80m ³ /日まで低減。
	東京電力においてトリチウム分離技術の実用化に向けた検討を進めていくとともに、国としても文献等の確認等を通じて国内外の最新の動向を注視。	東京電力において、実用化に向けたフィージビリティスタディを実施し、また、国としても文献調査を実施。

2. 現状の評価

- ALPS処理水の海洋放出は、IAEAからの評価も含め、引き続き、安全に実施されている。
- 一部の国・地域による輸入規制措置による影響を除き、魚価の大幅な低下などの風評影響が生じているという声は聞かれていない。
- 一方で、一部の国・地域による科学的根拠に基づかない輸入規制措置が継続しており、引き続き、即時撤廃に向けた働きかけを行う必要がある。
- 中国による輸入規制措置の影響が大きかったホタテについては、「水産業を守る」政策パッケージ等により、家計の国内消費額が平均で1.5倍程度へ増加し、また、従来の対中国輸出量の約半分の代替販路を開拓した。一方で、従来の対中国輸出量を置きかえるには至っておらず、引き続き、国内消費拡大・海外販路開拓等の対策を実施する必要がある。
- また、長期にわたるALPS処理水の放出による漁業の将来への不安・懸念を払拭するため、引き続き、対策を実施する必要がある。

3. 今後の対策の方向性

- 昨年の本関係閣僚等会議において確認した「政府としてALPS処理水の処分が完了するまで全責任を持って取り組む」という方針に変わりはない。①安全確保、説明・情報発信、②風評影響対応、なりわい継続支援、③将来技術の検討等を引き続き実施する。
- **引き続き、安全確保に万全を期し、IAEAによる評価も含め、国内外に向けて科学的根拠に基づき、透明性高くわかりやすい情報発信に努めていく。**
- **一部の国・地域による科学的根拠に基づかない輸入規制措置について、引き続き、あらゆる機会をとらえて即時撤廃を強く求めるとともに、科学に基づく専門家同士の対話を通じ正しい理解を得る努力を行い、また、輸入規制措置の影響を受けた日本産の水産物について、引き続き、三陸常磐ものの魅力発信を含む国内消費拡大・ビジネスマッチング支援等の海外販路開拓等の必要な対策を実施する。**
- 我が国水産業のなりわい、事業を活力ある形で、子や孫の世代まで持続的に引き継いでいけるよう、国内生産持続対策等を含め必要な対策を実施する。
- 秋に策定を目指す経済対策も含め、こうした対策を着実に実施し、全国の水産業支援に万全を期す。

8月30日 第7回廃炉・汚染水・処理水対策関係閣僚等会議／第7回ALPS処理水の処分に 関する基本方針の着実な実行に向けた関係閣僚等会議における岸田総理発言(@官邸)

- (略)。ALPS処理水の海洋放出については、IAEAによる評価を含め、引き続き、安全に実施されています。私自身、ちょうど1年に当たる先週8月24日に福島に赴き、魚市場で現状を確認し、漁業関係者の方々と意見交換してまいりました。
- 本日の会議において、ALPS処理水の処分にに関する基本方針の実施状況を確認し、昨年の本会議において示した、政府としてALPS処理水の処分が完了するまで全責任を持って取り組むという方針について、何ら変わりなく堅持することを確認いたしました。
- 他方で、一部の国・地域による科学的根拠に基づかない輸入規制措置が継続しており、引き続き、あらゆる機会を捉えて即時撤廃を強く求めるとともに、科学に基づく専門家同士の対話を通じ正しい理解を得る努力を行います。
- (略) ただし、対中国輸出量の全てを置きかえるには至っておらず、三陸・常磐ものの魅力発信を含む国内消費拡大・ビジネスマッチング支援等の海外販路開拓等の必要な対策を実施していきます。
- また、長期にわたるALPS処理水の放出による、漁業の将来への不安・懸念を払拭するため、引き続き、我が国水産業のなりわい・事業を、活力ある形で、子や孫の世代まで持続的に引き継いでいけるよう、国内生産持続対策等を含め必要な対策を実施していきます。
- 秋に策定を目指す経済対策も含め、こうした対策を着実に実施し、全国の水産業支援に万全を期すことといたします。(中略)
- 国も引き続き前面に立って、福島復興の前提となる福島第一原子力発電所の安全かつ着実な廃炉に取り組んでまいります。



8月23日 坂本全漁連会長と齋藤経産大臣の面談における齋藤大臣発言(@経産省)

- 明日24日でALPS処理水の海洋放出開始から1年を迎える。現在、8回目の放出を行っており、これまでのモニタリング結果から、安全であることが確認されている。また、IAEAも国際安全基準に合致していることを確認している。引き続き、安全性の確保に緊張感を持って対応するとともに、**モニタリング結果を含め、国内外に透明性高く情報発信を行っていく。**
- **一部の国・地域による科学的根拠に基づかない日本産の水産物の輸入規制について、即時撤廃に向け、様々なレベルで働きかけを行っていく。**また、引き続き、政府一丸となって、「水産業を守る」政策パッケージ等からなる水産業のなりわい継続支援等に万全を期していく。
- さらに、風評影響の抑制のためには、水産物の魅力発信や透明性の高い情報発信も重要。水産物の販路拡大事業を通じ、全国の消費者を対象とした安全性・魅力発信を実施している。今月8日には、私自身、福島県にて、常磐ものの魅力発信イベントに参加し、消費拡大を呼びかけた。今後も、国内外における日本産の水産物の消費拡大に向けて私自身、先頭に立って取り組んでいく。
- ALPS処理水の海洋放出は、福島の復興と、その前提となる東京電力福島第一原子力発電所の廃炉を着実に進めていくために避けては通れない取組。たとえ今後、数十年の長期にわたるうとも、ALPS処理水の処分が完了するまで、政府として責任を持って取り組んでいく。皆様とは、引き続き、意思疎通を密にして、安全確保、風評対策・なりわい継続に係る対策をしっかりと講じてまいりたい。



ALPS処理水に関する最近の情報発信

- ALPS処理水について、よく質問いただく事項をシェアしやすい1枚の画像にまとめたコンテンツ（日・英）や、1分程度で分かりやすく解説した動画を作成するとともに、新聞やWeb広告などを活用した情報発信を実施。
- 地元紙（岩手日報、河北新報、福島民報、福島民友、茨城新聞）において、各県水産物の魅力とALPS処理水に係るモニタリング結果を伝える広告を掲載。

ALPS処理のプロセス

トリチウム

STEP1
ALPS
処理

STEP2
海水で
大幅希釈

STEP3
海洋放出

浄化が必要な水

ALPS処理水

STEP1
トリチウム以外の核種を規制基準以下に濃度化し浄化。

STEP2
トリチウムについても安全基準を十分に満たすよう海水でさらに100倍以上に希釈。
・トリチウム濃度1,500ベクレル/L未満に⁰¹⁾
・トリチウム以外の核種を規制基準の1/100以下に

STEP3
安全基準を大幅に下回るALPS処理水のみの海洋投棄。
放出するトリチウムの総量も事故後の基準（年間22兆ベクレル未満）と同様。放出後も、モニタリングにより海洋や水産物のトリチウム濃度をモニタリング。





Tritium is a relative of hydrogen, and is an element produced naturally every day. As a result, it is contained in tap water, rainwater and also in our bodies.

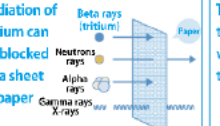
Tritium is a relative of hydrogen

Tritium exists widely in nature





Radiation of tritium can be blocked by a sheet of paper



Tritium is excreted together with water from the body





みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説

ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？





みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
トリチウムって何？



広告

「常盤もの」 美味しいつながり
海の恵みの力

海の中や海沿いの「常盤もの」は、富山の海から獲れた魚や、くちの海の恵みの力をもつものによって結びあいます。その「常盤もの」のつながりには、人と人、人と物があふれる、心あふれるつながりがあります。

生産
相馬双葉漁業協同組合

小売
福島市民市場株式会社 浜の駅 松川浦

富山の「常盤もの」のつながりとは？
 富山県産の魚、海産物は、富山県産の魚、海産物、くちの海の恵みの力をもつものによって結びあいます。その「常盤もの」のつながりには、人と人、人と物があふれる、心あふれるつながりがあります。

富山の「常盤もの」のつながりとは？
 富山県産の魚、海産物は、富山県産の魚、海産物、くちの海の恵みの力をもつものによって結びあいます。その「常盤もの」のつながりには、人と人、人と物があふれる、心あふれるつながりがあります。

卸売
東京都中央卸売市場 豊洲市場

飲食
五色 GEMS 市ヶ谷店

富山の「常盤もの」のつながりとは？
 富山県産の魚、海産物は、富山県産の魚、海産物、くちの海の恵みの力をもつものによって結びあいます。その「常盤もの」のつながりには、人と人、人と物があふれる、心あふれるつながりがあります。

富山の「常盤もの」のつながりとは？
 富山県産の魚、海産物は、富山県産の魚、海産物、くちの海の恵みの力をもつものによって結びあいます。その「常盤もの」のつながりには、人と人、人と物があふれる、心あふれるつながりがあります。

みなんで知ろう考えよう。ALPS処理水のこと

ALPS処理水は、放出前に分析を行い、放射能物質が基準をクリアしていることを必ず確認するなど、厳密に管理され放出されています。これらのおかげで、放出前・放出後・放出後のモニタリングの結果、いづれも問題のある数値は見られず、安全性が確認されています。

ALPS処理水の分析結果
 東京電力福島第一原子力発電所3号機内から放出されたALPS処理水の分析を行い、いづれも基準値をクリアしていることを必ず確認します。

海域モニタリング結果 （過去・現在・未来のモニタリング）
 東京電力福島第一原子力発電所近海海域のモニタリング結果について、結果は良好です。

ALPS処理水に関する情報はこちら
 みなんで知ろう ALPS処理水

国内外の販路拡大と三陸・常磐ものをはじめとした水産物の魅力発信

◆ 国内消費拡大と販路拡大の取組推進

- ✓ 「三陸・常磐もの」の魅力発信・消費拡大のために、1,100者を超える企業等が参加する「三陸・常磐ものネットワーク」を活かし、ネットワーク参加企業等による社食や弁当の購入等を通じた消費を喚起。これまでに3回、「三陸・常磐ウィークス」を開催し、合計で約212万食の弁当及び社食等を提供。令和6年10月1日から11月4日までにおいて「三陸・常磐ウィークス(第4弾)」を開催し、「三陸・常磐もの」の消費拡大を推進。
- ✓ また、「ごひいき！三陸・常磐キャンペーン」では、2023年12月に大手コンビニエンスストア（セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン）とのコラボ企画を行ったほか、2024年8月には福島県内の小売・流通事業者と連携した試食イベントを実施。同月、東京ビッグサイトで開催された日本最大級の水産見本市「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」においては、三陸・常磐地方の事業者等の出展をサポート。

◆ 海外販路拡大の取組推進

- ✓ ホタテ等の水産物の海外販路開拓をJETROが支援（海外でのプロモーションイベント実施、海外バイヤー招聘による加工現場視察と商談機会の提供（5月の星バイヤー招聘事業等）、海外イベントへの出展支援等）。JETRO・JFOODOを通じ、国内外70都市以上で日本産水産物のPRイベントなど、約170件の商談イベント等の支援を実施。国内外で実施した1,400件以上の商談に、海外バイヤー700社以上、日本の水産・加工業者400社以上が参加し、成約件数700件以上を実現した。

◆「三陸・常磐ウィークス」

岸田総理、齋藤経産大臣も食べて応援



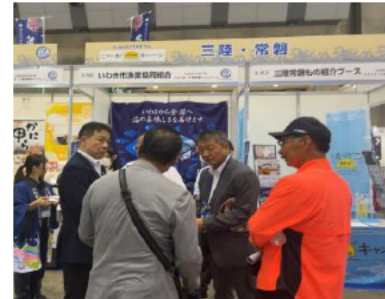
◆ごひいき！三陸常磐キャンペーン

8/8 三陸常磐の海の幸の魅力を伝える試食イベント(齋藤経産大臣出席)



◆水産物の魅力発信・消費拡大

8/21-23 ジャパン・インターナショナル・シーフードショー



◆海外販路開拓

海外バイヤー招聘の様子▼



5/2-5北海道産ホタテのメニュー提案会と料理（タイ）▼



風評払拭に向けた取組①（3.11周辺の情報発信）

「風評タスクフォース（持続可能な復興広報に関する検討会議）」の議論を踏まえた取組として、①行政による発信に閉じない民間主体の柔軟な発信の後方支援、②「質」の重視、③持続的な自走に繋がる取組を意識した発信を実施。

＜発信企画例＞ 海外での福島県産品の販路拡大

スイス

〔日スイス国交樹立160周年記念レセプション〕



インド

〔在印日本国大使館開催天皇誕生日レセプション〕



サンフランシスコ

〔日本総領事館主催天皇誕生日レセプション〕



バンコク

〔天皇誕生日レセプション〕



風評払拭に向けた取組②（大阪・関西万博を活用した情報発信）

- 福島浜通り地域等を背景としたポスターを作成し、福島復興の姿の発信を実施。
- 2025年大阪・関西万博において、復興展示やツアー等の福島復興企画を実施予定。

ポスター

【富岡町】夜ノ森



【大熊町】大山祇神社



【浪江町】請戸漁港



【双葉町】伝承館



大阪・関西万博における福島復興企画

復興展示

- ・展示概要：
復興の歩みについて、未曾有の災害から暮らしを再建し、新たな賑わいやイノベーションの創出を目指した様々な挑戦について紹介するコンテンツを展示するとともに、福島浜通り地域等が社会課題解決の先進地として再生を目指す一連のストーリーを紹介。
会場中央には、交流・憩いの場として、浜通り地域等をかたどったテーブルを設置。
- ・展示場所：EXPOメッセ（約1,000㎡）
※同規模の隣接スペースにて、復興庁も東日本大震災に関する復興展示を実施
- ・展示期間：2025年5月18日 ～ 5月25日 ※設営・撤去もこの期間中に実施



先端技術・イノベーション



豊かな暮らしの再建



交流・憩いの場として浜通り地域等をかたどったテーブル

浜通り地域等ツアー・福島県産品PR

復興展示に加え、福島への誘客を促すプレツアー・ツアー、会期全体を通した万博での福島県産品PR等を実施。

<2023年度プレツアー>

- ・浜通り地域等への誘客促進、国内外への情報発信を目的とし、昨年10月に海外プレスや駐日大使、大使館職員等を対象としたツアーを実施。
- ・中間貯蔵施設や伝承館、ロボットテストフィールド等を訪問。



▲昨年10月に実施したツアーの様子